

自殺防止へ連携 600人研修



養護教諭、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターが連携のあり方を考えた合同研修会。25日、福井市の県生活学習館

福井 池田中問題受け県教委

池田中の生徒自殺問題を受け、県教委は25日、県内小中高校と特別支援学校の養護教諭、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターによる初の合同研修会を福井市の県生活学習館で開いた。悩みを抱える子どもや発達障害の疑いがある子どもを見逃さず、情報を共有し、学校組織として支援していくための連携のあり方を約600人が考えた。

生徒自殺問題について池田町教委の調査報告書は、学校の組織的な対応の欠如を指摘した。合同研修会は、「保健室の先生」として子どもの心身をケアする養護教諭と生徒指導主事、発達障害など特別な配慮が必要な子どもの支

援計画を立てる特別支援教育コーディネーターの3者が連携し、きめ細かな対応をしていく狙い。

教育心理学などが専門の内田利広・京都教育大教授が講義した。表情が暗い、成績が落ちるといった子どもが発するSOSを見逃さないため、積極的な関わりを求めた。「子どもを理解しないままいくら支援しても、子どもには伝わらない」と強調。関わりがある教員が集まって「ケース会議を開き、能力や対人関係、家庭環境などの情報を共有して多面的に理解し、個別に支援方針を立てていくべきだと助言した。会議内容の守秘も求めた。

非公開で行われたグループ協議では、具体例を基に3者が子どもへの支援方針を検討した。

合同研修会は18日に敦賀市内でも開かれ、2日間で312校の約900人が参加した。(小林真也)